

2015 年度 根研究学会臨時総会 資料

2015 年 9 月 30 日

東京農業大学 厚木キャンパス

目 次

1. 会費値上げと電子版会誌の導入 (案)	…	1
1) 会費の値上げと電子版会誌導入に関する改革案の経緯について	…	1
2) 会費について	…	1
3) 電子版会誌の配布方法について	…	1
4) 余剰金について	…	1
5) その他	…	1
2. 根研究学会会則の改定 (案)	…	1

1. 会費値上げと電子版会誌の導入 (案)

1) 会費の値上げと電子版会誌導入に関する改革案の経緯について

これまで、阿部会長による巻頭言や 2015 年度定期総会報告で会費の値上げのお願いと電子版会誌の導入について会員の皆様にご提案し、意見を伺ってきた。第 24 巻 2 号では、これら 2 点を含めて、研究学会の今後のあり方に関するアンケートを行った。いただいたご意見を参考にしつつ、正副会長、評議員などの間で議論を行い、下記の改革案を本臨時総会で提案することに至った。

2) 会費について

2016 年度 (2016 年 1 月) より会誌「根の研究」の発行形態として新たに電子版を導入する。また会費を電子版 (PDF) のみ購読の個人会員 3,000 円、冊子版も購読の個人会員 4,000 円、冊子版のみ購読の団体会員 9,000 円とする。なお、電子版のみの個人会員は会員名簿に電子メールアドレスを登録した会員に限る。

3) 電子版会誌の配布方法について

- ① J-Stage からの論文とレビューのダウンロードにはパスワードを必要とする。各号の発行から 1 年後にはパスワードを解除する。

- ② 根研究学会 HP からは表紙を含めた PDF 版のダウンロードとする。開くときにパスワードを入力する。各号の発行から 1 年後にはパスワードを解除する。
- ③ パスワードは電子メールで通知する。パスワードは J-Stage, 根研究学会 HP に対して共通のものとし、年度 (1 月 1 日 - 12 月 31 日) 毎に更新する。
- ④ 冊子版購読の個人会員にも、同様に電子版のパスワードを通知する。

4) 余剰金について

今回の改革によって財政に余裕が生じた場合には、アンケート結果を重視し、「英文誌 Plant Root の運営費」に重点的に助成する方向で検討する。さらに余裕がある場合には、次に優先順位が高かった「学生会員の会費割引」の設定や「実体験型ワークショップ・合宿」への助成を検討する。

5) その他

2016 年 2 月末までに冊子版希望の連絡がなかった個人会員については電子版のみ購読の会員と見なす。年度途中で冊子希望の連絡、または、4,000 円の会費振込があった会員には、その時点で 1 号からさかのぼって冊子版を送付する。ただし既刊の号について在庫切れが生じた場合には、在庫のある号のみの冊子版を送付する。

2. 根研究学会会則の改定 (案)

2015 年 9 月 30 日改定

総 則

第 7 条 会員は、下記の年会費を前納しなければならない。2016 年度以降の年会費は、1. 電子版会誌のみ購読の個人会員 3,000 円、2. 電子版と冊子版会誌購読の個人会員 4,000 円、3. 冊子版会誌のみ購読の団体会員 9,000 円。ただし、1 月をもって年度の始まりとする。長期に渡り会費を滞納した場合は、退会扱いにすることがある。

第 13 条 本会の会則は、1992 年 1 月 1 日より施行され、2015 年 10 月 1 日より現行の改定版の会則が適用される。

以上

過去1年間の冊子版と電子版の刊行費

「根の研究」冊子版刊行予算				
	24巻1号	24巻2号	24巻3号	23巻4号
組版	19,800	15,200	17,800	19,400
印刷(400部)	135,000	94,300	112,000	129,000
BIB制作	5,000	5,000	5,000	10,000
送料(会員分)	36,991	26,082	26,082	41,900
合計	196,791	140,582	160,882	200,300

24巻3号の送料は確定していないため前回と同様として記載

23号4号は450部印刷

「根の研究」電子版刊行見積				
	24巻1号	24巻2号	24巻3号	23巻4号
組版	19,800	15,200	17,800	19,400
印刷(100部)	91,000	70,000	77,000	88,000
BIB制作	5,000	5,000	5,000	10,000
電子版	10,000	10,000	10,000	10,000
送料(100部)	17,000	17,000	17,000	17,000
合計	142,800	117,200	126,800	144,400

会員数約360名 冊子版会員と団体会員を合わせて100名と仮定

冊子版と電子版の差額					
	24号1号	24号2号	24号3号	23号4号	合計
差額	53,991	23,382	34,082	55,900	167,355

送料の差額を含む、消費税を含まない

会費による増収分

1,000円(冊子版会員の値上げ) × 100名(仮定) = 100,000円

約26万円の増収・削減効果

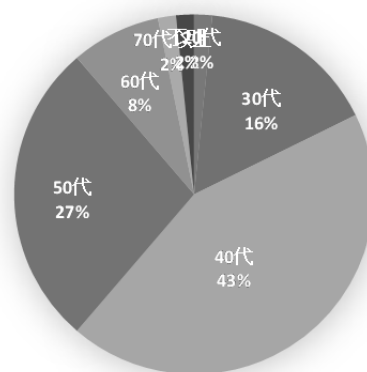
会費などに関する根研究学会アンケート結果

会誌「根の研究」第24号2号でご案内し、2015年7月から8月上旬にかけて回答していただいたアンケートの結果です。回答数は62件で、ポスドクは1件、学生は回答なしで若手の回答が極端に少なかったことが残念でしたが、ここに結果をご報告いたします。アンケートにご回答いただいた会員の皆様には厚くお礼申し上げます。

アンケート回答者の構成

全62名の回答で40代(27名)・50代(17名)・30代(10名)の回答が多く、20代は1名に限られた。また社会人60名、ポスドク1名、不明1名で学生の回答はなかった。男女構成は男性51名、女性9名、不明1名で男性の回答が多かった。

回答者年齢別



電子版会誌の導入について

反対意見はなく、賛成57名、どちらともいえない4名、不明1名であった。

電子版会費 3000 円について

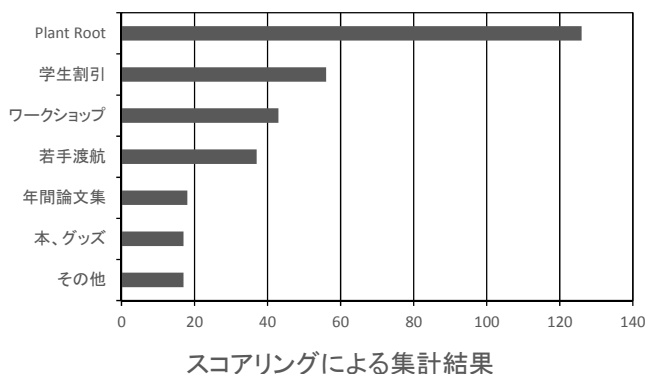
高い3名、妥当55名、安い4名であった。「高い」、「安い」の意見があったが、「妥当」の回答が多かった。

冊子版会費 4000 円について

高いという意見はなく、妥当58名、安い2名、不明2名であった。

財源に余裕ができたときに活用すべきこと

1位の支持が多かったのは、「Plant Root の運営費」34名、次いで「学生割引」8名、2位では「学生割引」15名、「Plant Root の運営費」・「若手渡航助成」各9名であった。また事務局で1位=3点、2位=2点、3位=1点とスコアリングした結果、「Plant Root の運営費」、「学生割引」、「ワークショップ開催」の順で支持が高かった。その他では、「HP や使い勝手の良い電子版のジャーナル運営費用」、「将来に向けて貯金」、「電子版会員の会費の値下げ」、「根研関係書籍の会員割引」、「Plant Root に Impact factor を賦与できるようにする」との回答があった。



会員種別の希望

電子版会員47名、冊子版会員(+電子版)14名、不明1名で、4人に3人は電子版(PDF)のみ購読の個人会員を希望していた。会員数が約360名なので冊子体を購読する個人会員・団体会員は100名前後と思われる。

その他、学会のあり方や新しい活動についての書き込み意見

- ジャーナルの電子版化は時代的にも受け入れられると思います。余裕がでたら上記に挙げられたように、「根の研究」に掲載された論文・レビューを冊子化して配布することで資料も残り、また冊子体のほしい方に対してある程度の説得できる形になるのではないのでしょうか。
- 電子版への移行をする際には会員の HP へのアクセスが必然的に増える。このことを考えると、HP の使い勝手の充実や Plant Root 誌 (<http://www.plantroot.org>) のように、どんな内容の論文、記事が掲載されているのかにフォーカスのあたるようなつくりの HP になっていくのが良いのではないだろうか？また、これは Plant Root 誌にも言えることですが、Breeding Science や Plant Production Science のようにログインをして、オンライン上で投稿、査読するシステムに変更する必要があるのではないだろうか？投稿プロセスがしっかりと海外の人も安心して投稿してインパクトファクターも上がるのではないだろうか？特に Plant Root の Editorial Board は他誌と比較してもかなり充実しているので、効果は大きいと思う。
- Plant Root の編集長を（予算を付けて）若手に託す。
- 根研という“なんだかマニアックで近寄りがたい”というイメージを非会員で持つ人も多いと思うので、気軽に参加できることや雰囲気の良い、学術的トピックとしての面白さをもっと伝えていけるような活動ができたらと思います。たとえば各会員の主たる所属学会の講演会などで根研の活動を PR するようなプリントの配布や小集会の開催、ブースの設置など、根研を知らない人、気になっているけどなかなか参加する勇気がない人などに身近に感じてもらえるような PR 活動があればいいのかなと思います。
- 会員間の共同研究がどんどん発展していくといいと思います。
- 冊子欲しいですが、渡航先などで読むのに電子版も欲しいです。
- 学会の PR を兼ねて、研究集会で公開での講演・シンポジウムを開催してはどうでしょうか。樹芸分野では、根への関心は高いのですが、情報を得る手段を持っていないのが現状です。
- 根の研究を行うための調査、分析機材を揃えるのに苦労しております。分析の受け入れができる場（国研、大学）が整備されるとありがたいです。
- ご返答が遅くなり申し訳ありませんでした。他雑誌でも、電子ジャーナル化が主流となりつつありますし、いずれ導入するのであれば経費のことも考慮すると早い方が善いかと思います。
- 基本的に紙媒体は廃止で良いと思う。また、冊子版は年 2 回の発行で良いのではないか。
- 電子版発行にするならば、要旨を英語でも作成してもらうことにして、海外の方にも加入を促進してみたいかでしょうか（日本国内ではなかなか今後会員の増加は難しいか）？もしくは、逆に国内に活路を求めて普及所や農協等の方も入るメリットを感じられる内容にする（実益的な内容や総説を増やす）など・・・。
- 電子版なら、場所をとらないのでありがたいです。
- いろいろな学会に入っていますので、会費は安い方が助かります。また、ちょっとした会誌の印刷業務の経験上、冊子版は印刷、発刊、郵送の作業で手間暇と経費がかかりますので冊子版会員の会費値上げはやむなし、と思っています。電子版会員、ちょっと高めの会費設定のようにも思えますが、過去の会誌も電子化していくことができれば、この金額でもメリットがあると思います。